

課題名

パイロットフォレストを活用した森林・林業の普及・啓発への取組み

機関名

所属 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

職名・氏名 自然再生指導官 ○林 直樹 朝倉基博

1. 課題を取り上げた背景

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターの活動区域内には、先人たちが多くの困難を克服し1万ヘクタールもの原野を一大造林地に作り上げた「パイロットフォレスト」（以下「PF」という。）と呼ばれる一大造林地があります。PFは昭和32年から本格的な造成が開始され、現在では区域の約72%が森林で占められ、順調に森林への回復が進んでいます。また、PFは森林環境教育のフィールドとしても良好な環境を保持しています。しかし、PFが所在する釧路管内でもPFの認知度は低いことから、多くの人々にPFの素晴らしさを知ってもらいたいと考え、様々な取組みを通してPFの情報発信に努めています。

2. 取組みの経過

PFの認知度を高めるため、以下のような取組みをとおして情報発信に努めてきました。

- ①木道・遊歩道の整備：PF造成50周年（平成18年）に合わせて木道を整備。その後研修棟から別寒辺牛湿原を経由して望楼までの約2kmの遊歩道にチップを敷設。
- ②道立厚岸少年自然の家や釧路市子ども遊学館との共催による親子や小学生の森林体験活動の支援：根釧西部森林管理署との連携により親子や小学生を対象とした森林・林業体験活動を支援。
- ③教職員を対象とした森林ふれあい講座の開催：平成17年度から教職員を対象とした森林・林業の体験講座を実施。
- ④釧路教育局の実施する教員初任者研修の支援：平成22年度については③に換え釧路教育局教員初任者研修の一環としてPFをフィールドとして森林・林業の体験講座を実施。
- ⑤お年寄りを対象とした森林サポート事業の実施：普段森林に入る機会

の少ないお年寄りを対象に平成21年度からPFの魅力を発信。

⑥近隣小中学校の森林環境教育のフィールドとしての活用等

3. 取組みを実施して

2①の遊歩道整備が平成22年度に終了し、研修棟一望楼間の約2kmが歩道でつながったことから、森林環境教育等のフィールドとして活用を図るとともに、樹名板・解説板等を設置してより教育効果の上がるフィールドとしていきたい。2②の親子や子供たちを対象とした取組みについても、PFを情報発信していく取組みとして有効な方法です。2③④の教職員を対象とした研修については、22年度に実施した教育局の研修に組み込んでもらうスタイルが研修効果も高いことから、引き続き釧路教育局に連携を働きかけていく。また、研修参加者76名に森林との関わりや森林環境教育についてのアンケート調査を実施。2⑤の取組みは徐々に広がりを見ており、身近にこのような素晴らしい森林があったことに驚く参加者が多くみられます。2⑥の森林環境教育の取組みは、ふるさと学習の一環として行われており、子供たちに地域の自然の素晴らしさを再認識させる良い機会となっています。

4. まとめ

PFを知ってもらうことは、以下の①～③に通じると考えています。

- ①荒れ果てた原野から自然豊かな森林に再生したPFで行う自然観察や森林教室をとおして、森林への興味を醸成し、森林の仕組み・働きについて考えるきっかけになります。
 - ②森林の造成が地域の農業や漁業の振興に大きく貢献していることを理解し、森林と川・人間との関係について考えるきっかけになります。
 - ③広大な原野に短期間のうちに森林を造成した技術や地域の人々の協力について理解し、人間と自然の関係、環境について考えるきっかけになります。
- 今後も様々な取組みをとおしてPFの情報発信に努めていきたいと考えています。